

# いんづくろ池公園を守れ

## NPOがサポーター養成

NPO法人いんづくろ池自然の森主催のサポーター養成講座が11日にいんづくろ池自然博物館で開かれ、6人が新たなサポーターとして認められた。NPO法人は、柏市が平成18年に「市民でつくる100年の森」とのキャッチコピーで集めた市民を中心に結成され、近年は高齢化が進むため、新たな人材を求めて養成講座を開いている。

同公園には、環境省のレッドデータに掲載されている絶滅危惧種の植物



受講者を連れ、園内を解説した

講師は、法人の古橋敷事務局長(72)が務めた。古橋事務局長によると、公園の敷地は現在約16畝(用地取得残り約2・5畝)あり、これまで、間伐や園路整備、いんづくろ池のみおぼい(泥上げ)など、管理してきたという。「森を守っても、誰もこない森では意味がない」。

一方で、こうした作業は、人員を要し、体力勝負でもある。会員は52人で、平均年齢は70代。「100年守り続けるには、組織的に息切れしてき」と古橋事務局長。今回の6人の参加を喜ぶ。

園内見学では、落ち葉を踏みしめながら、時折、青々とした木々の上から鳥がさえずっている。

た。参加した中川望さん(65)は、「自然のままの姿を残す活動のお手伝いができれば」と受講を決意した。石渡会長は「都合のよいときだけいい。肩ひじ張らずにご参加いただきたい」と長年の活動の秘訣を伝授した。